

平成30年度第2回

あま市自殺対策ネットワーク会議 会議録要旨

1 日 時

平成31年2月13日（水）
午後2時00分～3時30分

2 場 所

あま市甚目寺総合福祉会館 3階
つどいの部屋

3 出席者

委 員 出席12名、欠席 4名

4 報告事項

平成30年度第1回あま市自殺対策ネットワーク会議会議録要旨について

5 議事

あま市自殺対策計画及び各種取組の進捗状況について

(事務局説明要旨)

【計画の進捗状況説明】

平成30年の自殺者数の暫定値を説明しました。

平成30年のあま市の自殺者数は、平成29年と比較すると7人減少し
11人となったことを説明しました。

【自殺重点施策の進捗状況・取組結果】

自殺対策として、自殺対策重点施策について、今年度の進捗状況・取組
結果を説明しました。

市民向けの「ゲートキーパー養成講座」及び「職員研修」でのアンケー

ト結果を説明しました。

アンケートの結果から、相談場所のわかりやすい周知が重要との回答が一番多いことを説明しました。

アンケート結果を踏まえ、相談窓口周知の一環として「困ったときの相談窓口」のチラシを作成し、庁内相談窓口に設置する予定であることを説明し、現在は関係課各課窓口に設置してあります。

(主な質問・意見等)

① 質問：アルコール問題とうつ病には密接な関係がみられるものか。

意見：密接に関係しており、アルコールから自殺に向かっていくことになるケースは多い状況にある。

② 質問：思いつめている人が相談窓口に行くとも思うが、チラシを確認し相談に向かう人がいるのかという疑問もある。

意見：若い人たちはSNSなどで自殺したい気持ちを投稿することもあり、窓口を明確にすることは意味があることと考える。

意見：直接相談窓口に行かれる方だけでなく、電話で相談する方などはたくさんおみえになると思われるので、そのようなことを踏まえると有効かと思われる。

回答（事務局）：必ずしも、直接窓口に来る方ばかりでないとも思われるが、見えるかたちとして作成いたしました。

③ 意見：自殺対策は内容が複雑で、分野も多岐におよんでいる。限られた人数で取り組むよりも多くの市民の力をかりて、取り組むことが大切と思う。これらのことを踏まえ、例えば地域で勉強会を開くことを検討してはどうか。

回答（事務局）：ご指摘のとおりであり、多くの市民のみなさんの協力が得られるよう地域での勉強会等を含め検討してまいります。

- ④ 質問：相談を受けるだけでなく関係機関に直接働きかける「つなぎ役」のような人たちも必要と考えるが、あま市にはそのような方はみえるのか。

回答（事務局）：こころの相談ということであればあま市職員の保健師等が対応しつなぎ役を行っていますが、自殺対策は内容が多岐に及ぶため、それだけでは不十分であると認識しております。

また、相談窓口を一本化するような体制が整備できれば、より有効な対応ができるのではとも考えますが、現状ではそのような体制とはなっておりません。

- ⑤ 質問：ゲートキーパーには直接働きかけるような役割はあるのか。

質問：ゲートキーパー養成講座はどのような内容となっているのか。

回答（事務局）：ゲートキーパー養成講座においては、「気づき」「傾聴」「つなぎ」「見守り」が中心となっております。

- ⑥ 質問：相談業務において、行政間での連携はされているのか？

回答（事務局）：他の相談機関・窓口との連携はおこなっていますが、その後の相談結果や解決については、全てにおいて確認までは取れていない状況です。

- ⑦ 意見：チラシについて、一部修正いただきたいところがあり、またこの窓口につながるのか、より具体的に記載いただきたい。

回答（事務局）：ご指摘いただいたとおり、加筆・修正させていただきます。

- ⑧ 意見：自殺念慮の背景（要因）別の相談窓口ではなく、たとえば「いのちの電話」「いのちの相談窓口」というかたちで相談窓口が設置できないか。

ストレートな名称で、かえって相談しにくいということが生まれるかもしれないが、相談窓口がわからないよりも良いと考える。

意見：市単独でそのような相談窓口の設置が難しいのであれば、他の機関を確実に周知することでの対応でも良いのではないか。

意見：相談窓口を担当する職員に過度な負荷がかからないようにも注意する必要がある。

回答（事務局）：そのような窓口体制とするためには、職員のスキル等の課題もあり、非常に難しいのが現状です。

- ⑨ 質問：地区別の自殺者数がわかるか。

回答（事務局）：国からの資料で、地区別の自殺者数の資料は出ておりません。

意見：自殺者数ではないが、消防署が自損行為として出動した件数は、平成30年度中で、甚目寺地区16件、美和地区9件、七宝地区8件となっている。

別紙「海部東部消防署内の自損行為による出場数」参照